

平成25年5月定例教育委員会会議録

平成25年度塩尻市教育委員会5月定例教育委員会が、平成25年5月23日、午後1時15分、塩尻総合文化センター301多目的室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 6月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について

4 議 事

5 その他

- その他第1号 教育委員会規則等改正（案）について
その他第2号 平成25年度教育委員会関係補正予算（案）について

6 閉 会

○ 出席委員

委員長	小 澤 嘉 和	職務代理者	渡 辺 庸 子
委員	田 中 佳 子	委員	石 井 實
教育長	山 田 富 康		

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	保 科 隆 保	こども教育部次長 (家庭支援室長)	清 水 進
教育総務課長	小 林 克 則	こども課長	羽 多 野 繁 春 実
生涯学習部長	岩 垂 俊 彦	生涯学習部次長 (スポーツ振興課長)	青 木 実
社会教育課長	平 林 雄 次	平出博物館館長	小 林 康 男
男女共同参画・人 権課長	熊 谷 善 行	市民交流センター長	田 中 速 人
市民交流センター 次長(図書館長)	伊 東 直 登	交流支援課長	小 澤 和 江
子育て支援センター 所長	掛 川 佳 子		

○ 事務局出席者

1 開会

小澤委員長 お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。ただいまから5月の定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

2 前回会議録の承認について

小澤委員長 次第に従いまして、前回の会議録の承認について事務局からお願いいたします。

上條教育企画係長 前回4月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名いただきますので、よろしくお願いいたします。

小澤委員長 よろしいでしょうか。では、お願いいたします。

3 教育長報告

小澤委員長 3番、教育長報告に入ります。教育長からお願いいたします。

山田教育長 正岡子規の俳句に「故郷やどちらを見ても山笑ふ」という俳句がありますが、全山若葉の今ふるさとは、この「山笑ふ」という季語にふさわしい、とてもいい季節だなということを思います。大分気温も高くなってまいりましたけれども、市内の小学校3校では6月1日に運動会があります。今、それを目指して準備が佳境に入っているころかなというように思いますけれども、適切な指導、また熱中症予防等体調管理に気をつけて進めるよう、先生方をお願いしてきているところであります。

きょうは初めに、昨日、片丘少年野球チームが市民タイムス旗争奪中信地区少年野球大会というところで、塩尻勢としては18年ぶりに中信の頂点に立ち、市長表敬の訪問にまいりましたのでそのことを話します市長は留守でしたので副市長と私が対応いたしました。その中で子供たちが一人一人自己紹介の場面をつくってくれました。それも庁議室へ入ったところで、担当の職員から自己紹介と一人一言だけ、一言だけ話をしてくれと初めてそこで言われて、それで紹介と一言言ってくれました。その一言の中になかなかいい言葉がたくさんあって、私はちょっと筆記用具を持ってなかったのでメモできなかったんですが、記憶に残っていることだけ少し紹介したいと思います。ある子は、「鉢伏の人たちが応援してくれたおかげで優勝できました」と言うんですね。鉢伏ってというのは宿敵の、私が勤務しておりました塩尻東小学校を中心としたチームなんですけど、これは準決勝で片丘が鉢伏クラブを破っているんですよ。準決勝で負けた鉢伏の子供たちが応援してくれたので、そのおかげで勝てたと、そういう言葉なんです。「僕はけがで出られなかったけれど、みんなが頑張ってくれて優勝してくれたのでうれしかった。」、中には低学年の子供ですけど、「大きい人たちが頑張ってくれて優勝したので、僕もうれしかった。」、「僕は試合に出られないけど、次の大会でも大きな声で応援したい。」さまざまなそういう、その場で一言ずつしゃべった言葉の中に子供たちの気持ちがよく出ているなと思いました。その言葉を聞いて、温かな雰囲気の関係の中でのチームづくりによって、チームとしての優勝できる力がついたんだなと、そういうことに納得したわけがありました。そんなことがありましたので、一つ最初に紹介をさせていただきます。

さて、今年度、年度の初めに現場の状況にできるだけ触れて、施策の成果や課題を私自身もつぶさに感じとりたいということで、できる限り現場に足を向けてきました。今回は、その中で平出博物館へ行ったときの様子を中心に話をさせていただき、あわせて保育園、幼稚園訪問、それから学校訪問についても触れたいと思います。少し、きょうは時間かけて報告をさせていただきたいと思いますので、お許しをいただきたいと思います。

まず、平出博物館でありますけれども、ちょうど企画展「ドラえもんグッズ大集合」の様子を見させていただき、あわせて学校の博物館見学や体験の様子も見させていただきました。初めに、この企画展ですけれども、パンフレットをもらって名称を見たときに「ドラえもんグッズ大集合」という、そういうのがばーんと銘打ってありましたので、初めは、「おや、ドラえもん？」というように私も思いました。しかし、この企画が平出遺跡から出土している、見た目が本当にドラえもんそっくりな、愛称「ドラえもん土偶」という、その土偶1点に焦点を当てながら、平出だけではなくて松本平で出土している他のドラえもんに似た土偶やその時代に使われていた道具ですね、そうしたものと一緒に全国各地から集められた小さいものから大きいものまで、さまざまな種類のドラえもんグッズを展示して、そのグッズを楽しみながら各地の地域性や文化、歴史にも触れながら、博物館をまずは身近な存在として感じていただくという、そういう趣旨に共感したところであります。見学に行ったときに館長のほうから、今、博物館は単に古代展といった企画を打つてもなかなか人は訪れないんだということ、まずは博物館に足を運んでもらうための企画力が必要なのだということ、その上で体を通して博物館の楽しさやよさを感じてもらい、そこからスタートしなくちゃいけないんだという言葉聞かせていただきました。これも確かにそうだなと思って納得したところであります。ゴールデンウィークを挟んだこの企画では、多くの子供連れの家族が来館をしたようであります。そのにぎわいを見て初期の目的を達成したのではないかな、そのようなことを館の関係者も話しておりました。

学校の博物館見学や体験学習では、松本ろう学校の子供たちが博物館見学をしている様子、そして箕輪東小学校6年生がガイダンス棟で体験学習をしている様子を見させてもらいました。ろう学校の見学なんですけれども、ろう学校でありますので耳が非常に不自由なわけでありまして。展示物について館長は決して、何て言いますかね、専門的なことを外さずに話すんですよ。専門的ではあるんですけれども、とても平易でわかりやすい、そうした説明について担当がそれを手話を交えながら子供たちに伝えていく、そんな様子でありました。子供たちの様子なんですけど、もう全身の神経を集中させて、そしてよく反応しながら感性豊かに一つ一つの展示物を受けとめておりました。自由見学の時間があつたんですけれども、自分の再度見たいものを決めてその展示物のところに真っすぐに向かい合っただけで一生懸命解説を読んだり、メモをしたり、そしてその展示物をスケッチをしたりしている姿がとても印象的でありました。子供たちの感性を揺さぶる展示がやっぱり博物館の中にあるなど、そういうことを実感したわけでありまして。

箕輪東小学校のガイダンス棟での体験学習でありますけど、勾玉づくりと火おこし体験をしているところでした。私が見たところは、火おこしの体験でした。本当に火をおこそうとして懸命にきりもみ、まいぎりもみって言うんですかね、ブーン、ブーンってやるやつですけれども。それで一生懸命やっておりました。どの顔も本当に真剣でした。きりもみでできた火種を麻ひもをほどいてつくった火口で包んで、それを火箸で挟んでやさしく風に当てるとポッと火がつくわけなんですけど、苦勞の末に火がつくと必ず「オー！」とか、「ワー！」という、その歓声があちこちで上がっておりました。中には男の子がポッとやって火がポオって、こうかざして、こういうふうにおお、ついたぞってというような格好をすると、すかさずそこにいた女の子が、何々ちゃんすごーいとかいう声が上がり、火をかざす男の子が恥ずかしそうでありながらも、どうだつてというような自信に満ちた自慢げな表情も見せてくれて、とてもすがすがしいと言いますか、体験の姿っていうのはいいな、子供たちもいいものを受けとめているなど、そんな思いがいたしました。校長先生にお聞きしましたが、ここを知っている職員がいて、ぜひあそこで体験をさせてくださいというようお願いをされたと言っていました。校長先生自身も初めてこの施設に来たということでありまして。「とてもよい施設で、きょうは半日の予定で来てるんだけど、半日ではこれはもったいなかった、弁当を持

って来てじっくり時間をかけて見学をしたり、体験をしたりしたい、そういう施設ですね」ってことを言っておられました。引率の先生にもお聞きしてみました。その先生は、「うちは初めてここへ来た学校なんですよ」ってことを言われた後、「このよさがきっと口コミで広がっていくんじゃないですか」ってことを言われました。あそこの施設もこれまで長い年月をかけて、また多くの経費をかけて整備した施設でありますので、これまでの歴史を何とか未来に向けて生かしていく施設としたいなど。市内外の多くの人のために一層活用したいと思いましたが、市内のそれぞれの館でも、やはり未来へつなげていくために子供たちの来館をどう導いていくのか、その辺についてもさらに工夫していきたいなどというように思ったところでもあります。これだけでも随分時間過ぎましたので、できるだけ簡単に話をしたいと思えますけれども。

保育園、幼稚園の参観であります。保育に当たる保育士の皆さんの適切な保育によって、年齢に即したその成長の姿というのが、多く見ることができました。すばらしい挨拶をしておりますし、返事はきちんとできますし、立ってものを言うときにはちゃんと椅子を後へ引いて、椅子を入れてものを言って、また最後に椅子を引いてそこへ座るといふ、そんなことまでできておりました。基本的な生活習慣が身についている子供たちがふえてきているなど、そのように思ったわけでもあります。また、保育士の話をよく聞いておりましたし、活動には集中して向かう子供たちが多く見られました。また、一生懸命先生や友達、来園者にかかわろうという、そうした姿も見られました。こうした成長は、どういうところで保証されてきているのかなって思うように考えたときに、園長さんはどこに出してもこれは恥ずかしくないですよと言いましたけれども、塩尻市保育園保育の手引きというのを、その改訂版を前年度の一番最後、年度末につくって、これを全保育園で基本にして保育をしておりますというように言っておりましたけれども、それを全ての保育士がそれをもとに保育にかかわっていること。そしてその進め方なんですが、子供たちの実態に立ちながらどのような活動を通して、子供たちにどのような力をつけるのかっていうことを毎日計画をして、書いて、実践したら、その日のうちに評価、それから反省をして、それも書いて、それを主任や園長に回して、それを主任や園長が確認をして適切な指導を与えて、次の日の保育に生かしていくと。それを毎日毎日繰り返しながらやっていく。特に気にかかる子供については、それを記述して、それをみんなで指導していく、そういうことを園の中でもやっているということでありました。ぜひ、これからもこうした日々の実践の質を高める取り組みをしてほしいなど思ったことと、幼保小の連携なんです。その中で、今、中心になっているのは、園児と児童の交流活動であると思います。そこから日ごろの保育とか授業の様子を互いに見合う。子供たちの様子を互いに見合う、そういうことを進めること。もしできれば夏休み等、小学校の先生方が保育園で少し時間をかけて様子を見たり、自分たちで実習を試してみたりというようなことをしてみると、子供たちがどう成長してきているのか、それをどう小学校は受け入れていくのか、そういったことがわかってくるのではないかなと、そんなことを思って、そのあたりのところもこれから何とか工夫していきたいということでもあります。

学校訪問についてでありますけれども、主幹指導主事の学校訪問が始まって、市内では桔梗小、両小野中の訪問が終わりました。委員の皆さんは一緒に訪問いただきましたので、それぞれの立場で成果や課題を感じとっていただけていると思いますけれども、もう少し多くの学校、実施されたところで市内全体に共通する課題とか共通する成果について、ぜひ、また話題にしていきたいなど、そんなことを思っております。きょうは、訪問した中で施策の成果があらわれていたと思うこと2点に絞って話をしたいと思います。1点は実物投影機の拡大機能を使うというICTの活用によって、2年生の女子生徒ですが、「そうだったのか、わかった」っていう声を上げたという、そういう事例がありました。「そうだったのか、わかった」それはやっぱりICTの活用によって、その言

葉が出たわけですが、こうした声がさらに聞こえるように市内の各学校どの教室でも、必要があればいつでも誰でも活用できるような体制づくりを、やはりまた中村主事の力を借りながら一層進めていかなくてはならないなと思いました。

2点目は図書館のシステム化によって、コンピューター処理によって得られたその情報を人気本ランキングとして掲示するという、そういう場面であります。読書を促す掲示でありますし、工夫によってさらに細やかな読書指導が可能になるなということを思ったところです。今後、同様にぜひ期待したいなというように思いました。

最後になりました。今、年度の初めでありますので、「早ね早おき朝ごはん・どくしょ」市民運動の協議会、博物館協議会、本洗馬歴史の里協議会、短歌館協議会、檜川地区文化施設協議会等々が開催されたり、近く開催されたりすることになっています。昨年度の事業実施の状況でありますとか、今年度の事業についての計画を説明することで、各委員から事業推進についての提言をいただくことが主目的になっております。意見を取り入れながら今年度の事業展開を図りたいところではありますが、委員の入れかえもあり、協議会そのものが提言とか協議の機能を十分発揮できていない部分もあろうかなというように思います。委員への事前の情報の提供でありますとか、各事業への積極的な参加を依頼して状況をしっかり見ていただくとか、提言いただきたいことについて視点を絞ってお願いをするとか、協議会そのものがマンネリ化したり、その機能が弱体化したりしないように配慮していきたいなというように思いました。

きょうは、長い時間かかってまことに申しわけなかったわけですが、以上で、私からの報告は終わりにいたします。

小澤委員長 ありがとうございます。片丘少年野球チームの18年ぶりの優勝の件、平出博物館ドラえもん、あるいは体験コーナーの件、保育園の訪問、主幹指導主事の学校訪問等々、全般にわたって御報告いただいたわけではありますが、小林館長さん、追加の説明、お願いします。

小林平出博物館館長 前々から平出博物館に来られる子供たちの中で人気がある土偶が2つありまして、1つは、今、お話のあったドラえもんによく似た土偶があります。もう1つはキティちゃんにそっくりの土偶です。非常に子供たちが喜んで見ているものですから、それが展示会で企画のメインに据えられないかなとずっと思っていました。ただ、ドラえもんグッズの場合は、ただ単に展示しただけではお遊びになってしまいますので、どんな形で展示できるかなと思ったときに、御当地ドラを通じて全国各地全ての都道府県の文化や歴史的人物を紹介すれば博物館でやる意味があるかなと思いました。それをごらんいただくと、例えば北海道なら北海道の産物、それからどんな人物がそこで活躍したかというようなことがわかるような展示を行いました。特にゴールデンウィークに合わせましたので、家族連れの皆さんが多く来ていただきました。

もう1つの特徴は、5月1日号の広報の中に博物館の施設案内を入れました。そこには無料券が入ってまして、それを持参して来られた皆さんが非常に多かったようです。例年ですとなかなかそれを活用する皆さんが目立たないわけですが、今回は展示会と広報活動がうまくマッチし効果はかなり見られたという気がしております。博物館としましては、先ほど教育長も申されましたが、ただ単に原始だ、古代だということばかりではなくて、ちょっとそれとあまりかわりがないかなと思うようなことも、逆にかかわりを持たせながら多彩な企画を図っていく必要があるかなと考えております。

小澤委員長 ありがとうございます。今、館長さんから補足説明していただいたわけではありますが、委員の皆さんからかわる事柄について、御意見お願いいたします。

田中委員 博物館だけですか。

小澤委員長 いえ、いえ、全般です。

田中委員 先ほど教育長先生の御報告の中の保育園の先生方の保育の取り組みの成果という中に、何々さんって呼ばれて、はいて返事をして立って、また椅子を入れるっていうようなことが保育園のお子さんたちができていたということなのですが、ずっと何年か学校訪問をしてまいりましたが、先生がお子さんを指名して、当てられたお子さんがはいて大きな声で返事をして、椅子を引いて立って、また椅子を入れてから答えるというお子さんがすごく少ないなと思っていました。保育園の段階でそこができて、段階というか、保育園で身につけていたものが、小学校になったらどうしてできなくなってしまうのかなということがずっと疑問でした。今の教育長先生のお話をお伺いして、小学校の先生にその姿を見ていただくのは非常に重要だと思ったんですけども、幼保小の連携の中でそういったことは、今の段階ではどんな引き継ぎと言いますか、連携が行われているのでしょうか。

山田教育長 先ほど私のほうで説明をした塩尻市保育園保育の手引きっていうのが、すばらしいのができておりましたが、実は私が市内で教頭をやったり校長をやったりしているときに、その保育指針、こういう指針に基づいて市では保育をどの園でも、その園独自の保育の部分もあると思いますけど、ここだけは市で共通して大事にしてるんですよ、3歳児ではこう、4歳児ではこうっていう、そのものを、やっぱり学校現場がよく知ってなかったってことはあるかと思います。それから、保育園と学校とのさまざまな情報交換の場合もあるし、今もあります。そこのところでは、この子はこういう傾向の子供で、ちょっと元気はあるんだけど時々お友達に手を出してしまいますっていうようなことの連絡っていうのは、かなり厚くやるようになってきていると思います。しかし、全体として生活習慣についてはこういう指導をしてきてここまでできるようになっていますとか、給食についてはこのように経験を積み上げてきて、卒園の状況では、今、ここまでは給食ではできるようになっているところですよっていうような情報交換っていうのは、少し薄かったと思います。そのところをやっていけば、小学校入学の段階で全てを振り出しに戻して、生活習慣も学習習慣もやっていなくてもいいことっていうのはたくさんある。例えば、1年生を受け持った先生が、「みんなたちは保育園のときに給食ではここまでできるようになっているんだってね、すごいね。じゃあ、ちょっときょうはやって見せてもらおうかな」っていうように、例えば、そこで一言言ったときに、「じゃあ、やってみるね」って、やってみたときに、「すごいじゃん、それでいいよね。でも、ここだけは、学校ではこうしようね」っていうことがあれば、そのことがだんだん習慣づいていくと思うんです。そこのところを滑らかに続けることが、ここしばらくの課題なのかなというように思います。それは、小学校と中学校も全く同じだと思います。

田中委員 ありがとうございます。

小澤委員長 羽多野さん。

羽多野こども課長 今、教育長先生のほうからもお話ございましたけれども、保育園現場、今、いろんなお母さん方もいらっしゃいますし、いろんな要望が出てくるわけでございますけれども、保育園の中で統一して、ここのところはこうやって教えていこうっていう部分っていうのは、根はしっかりと持っていてですね、それをじゃどのように、どの場面でそうやって発揮していくのかっていうところが、各保育士の資質にかかわってきているところかなっていうふうに思っております。そういうところで差があまり出ないようにですね、研修会も各年代、それから3歳児、4歳児っていう、その年代ごとの1年間通しての研究会みたいなものも開催しておりますし、そういうようなことで、より保育の向上を目指して現場でやっているということでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

小澤委員長 今の件、ちょっと余分なことかもしれませんが、6年くらい前、元気っ子応援事業の中で家庭支援室でミーティングをやったときに、ある方が、小学校1年生の6月ころまでは、基本的なしつけをつけるのに1日のうち半分くらい時間がかかっちゃう。それが世に言う小1プロブレム

ってということなんだけれども、ミーティングの中で何とかその時間をお勉強のほうに割り振れば、相当効率よくできるのになあってことが話題になりました。大和さんが担当だったと思います。今までの保育の中では、小学校入学に向かってこんな力がついてたらいよいよねってことは、まだ明確ではなかった。それで、1年たったときに、1つは姿勢をきちんと背筋を立てて、相手の目を見て聞く。それからわかったときには、はいという返事ができる、というようなことが、つけたい力として明らかにされて、そこを中心に保育士指針を立てた。市内の保育園の先生方がそこをきちんと基準にして、みんなでつけたい力を意識した保育をやっていこうということになって、その成果がうんとあらわれていることだと思う。小澤課長、そこら辺のところ一番ようわかっているから、ちょっと説明してもらえるとありがたい。

小澤交流支援課長 私たち元気っ子の応援事業をやってきて、やはり保育士へ、私たち携わる中で、やはり1つの事業をやろうと言いついたとき、やはり一番やりやすかったのは、保育士も同じ市の職員だったっていう部分で、一緒の話し合いができたと思います。そこで、その子供たちが小学校へ上がるに当たっての1つの壁が、学校は県の職員であってという部分がありました。やはり学校の先生方も一国一城のあるじであるので、やはり市の職員である私たち、またこども課の職員、保育士から言われることについては、何らかの抵抗があったかと思います。それで、少しでも子供たちの良い部分を伝えていきたい、子供たちの苦手な部分だけじゃなくて、ほかの部分も伝えるため、幼保小の連絡会があったり、個々の子供たちの連絡会があったりして伝えてきている中で、幼保小の関係の授業公開、授業参観の公開部分で、学校の先生方が保育園の現場も見ただき、そういう機会が大分増えました。それによって学校の先生方の御理解も深まった部分で、元気っ子事業が少しずつ継続されてきた意味があると感じました。それで、中にはやはり生活習慣っていう部分が、保育園ではできていたのに、小学校に上がって6月ころ参観に行くと、それがもう崩れてるっていう部分で、原因を考えたときには、連絡がうまくいってなかったっていう部分と、また先生方それぞれのお力もありますので、そういう部分で少しジレンマを感じて事業をやってきたところです。

小澤委員長 ありがとうございます。保育園の先生方のすごいところは、毎日、先ほど教育長の話にあった成長の記録っていうのを必ず書いてるんです。主任、それから園長さんにまでみんな見ってもらって意思統一をしている。それが前回、田中委員が言った個別支援計画につながる。

田中委員 それは小学校なんです。保育園の場合個別保育計画って。

小澤委員長 と同じ。

田中委員 はい。

小澤委員長 そういうことをやって、一人一人のデータをきちんと蓄積してくってところが、塩尻市の保育の大きな宝、財産だなんていうことを思っております。いずれにしても元気っ子応援事業っていうのは、すごいことであると、そんなことを思います。次長さん、一言よろしくどうぞ。

清水こども教育部次長（家庭支援室長） 今現在、保育園から小学校の大きく言うと移行支援をどういう形でやってるかということだと思うんですけども、それについては、今、委員長さんのほうからもお話しいただいた成長の記録は、各園児一人ずつについて全部、全員について保育園のほうでつくっていただいています。それを小学校のほうに上げると。プラスいろいろ気がかりがあったお子さんについては、それプラスアルファの情報もつけて学校のほうに送っていますので、それを学校のほうでどこまで活用するかっていうところが、その移行支援の中で言うと、途切れのないうちのほうは支援を目指しているんですけども、やはり先ほどからちょっとお話が出るように、市の職員と県の職員との若干のギャップ等があるのかなというようには思っております。ただ、その部分の解消につきましても、うちのほうでそのほかの情報を持っていますので、その情報を学校サイドに出すということも、それぞれの機会ごとにお話をしておりますので、必要に応じてそうい

う情報は出していくと。学校の情報もうちにいただくっていう、できる限り顔の見える関係づくりの中でその辺のギャップは埋めていくと。6万8,000、市の自治体規模ですので、その辺が教育委員会、よく市長もおっしゃられてますけども、教育委員会、学校現場、あるいは行政職員も含めて顔の見える関係づくりの中でその辺のギャップを埋めていくというのが、塩尻市の元気っ子応援事業の特徴かなというふうに思っております。それを目指して日々いろんな形で仕掛けをしているというところが現状です。以上です。

小澤委員長 ありがとうございます。委員のほうでございますでしょうか。

石井委員 ちょっと学校訪問のことですけれども、主幹指導主事の先生方によって違うんですけども、要するに危険箇所、あるいは危険物はきちんと見て回って、整理されているかどうかということを中心にやられる先生がいたわけですけども、ほかの、例えば運動施設、校庭にはバックネットだとか、それからサッカーのゴールだとか、それからプールだとか、そういったことのチェックがなされなかったというような状態を見ていまして、先生によって違うのかななんて思ってきましたけども、結局、主幹指導主事の先生はチェック、要するに危険箇所をチェックするという意味があるわけですね。そこら辺はどういうぐあいに、教育長さん感じましたかね。この間、桔梗小で、私はつくづくあそこのプールなんかは見てもらうべきじゃないかなというふうに思っていたわけですけども素通りでしたし、私のほうからプールを見てくださいというわけにもいきませんでしたから黙っていましたけれども、そこら辺がちょっとなんか曖昧だなというふうに思いました。

それから、先ほどから出てます平出遺跡ですけども、本当に私は一番先の発掘に行ってきたので、非常に立派なものになって、市民の方々が見に来てくれないかなっていうふうに、どういうぐあいにすればいいかなんていうようなことも考えておりましたけれども、今回、非常になんかドラえもんっていうようなことでもって、それを引っかけた企画、やっぱしそういった企画力っていうのは非常に大事ななというふうに思っていて、よかったなというふうに思っております。また今後とも何かそういった企画をつくりながら、あそこを大いに利用してもらいたいなとこんなぐあいに思っております。よろしくひとつ、館長さんお願いします。

山田教育長 主幹指導主事の仕事の中に、学校施設の安全管理っていうのは大事なポイントとして入ってますので、私もお昼の時間から最後の指導の時間まで抜けてしまいましたので、その間どうされたかってことはちょっとわからないので、そのところは確認させていただきたいと思います。特に学校施設内の木でありますとか、それからもちろんプールでありますとか、遊具施設でありますとか、そういうところも本来的には全て回ってチェックすることが必要だと思いますけれども、全体の時間の中でそのチェックの状況を文書でチェックするとかっていうようなこともあったかどうか、その辺も含めて確認をさせていただきたいと思います。また、もしそこが十分されなかったっていうことであれば、以後の訪問もまだありますので、お話をしていきたいと思います。

石井委員 よろしく申し上げます。

小澤委員長 先ほど企画力、企画のよさについての意見がありました。市民タイムス等を通して小坂田の自然博物館、あるいは短歌館、釜井庵等々、イベントについて市民タイムスでは相当報道しております。担当者の努力が忍ばれるわけであります。きょうの市民タイムスかな、書いてありましたけれど大いに利用してくれと、そんなような記事もありましたので、お互いに情報交換に努めるのもいいことだなと思っております。ちょうど鎌倉さんがおられます。よろしくどうぞ。

ここで教育長報告、終わりにしたいと思います。

○報告第1号 主な行事等報告について

小澤委員長 それでは、報告第1号、主な行事等の報告についてであります。資料の1ページから4

ページ、御参加された中で御感想等ありましたらお寄せください。よろしいでしょうか。

リズムは楽しいの中で、4年次を迎えるわけであります。参加者は小中学生ということであります。参加する小中学生少ないと思うんですけれども、この子供たちは継続した子供たちなのか、あるいは毎年新規の子供たちなのか、ちょっと教えていただければと思います。

平林社会教育課長 「リズムは楽しいビート道場」は、今年4年目を向かえました。小・中・高校生を主として参加していただいていますけれども、1回参加した学生の方は、内容がかなり充実した高度なもので、自分のレベルアップに大きくつながるものですから、必ず翌年もまた参加しています。こうしたことから、継続してずっと参加している学生も何人かおられます。昨年あたりは中学生、高校生が中心に参加していきまして、平均で大体15人くらいが毎回参加していたようです。今年は諸事情がありまして、1回目は7人ということで、ちょっと少なかったようです。今後は、様々なPRを行う中で、少しずつ参加者も伸びてくるのではないかと思います。講師の中野さんにつきましては地元の宗賀の出身のプロのジャズドラマーです。主として東京の音楽教室を中心に、もう20年近く講師をされている有名な方であります。教えることはベテランで、その内容は定評があります。昨年は、市民音楽祭にも、この道場に参加した学生が発表をし、大変好評でありました。こうしたことから、この道場には、継続して受けてる学生もいますし、新規の学生もいるということになります。大体1回参加すると継続して、また、参加する生徒が多いというふうに御理解をいただければいいかと思います。

小澤委員長 またいつかどこかで発表するような場、成果を発表するような場を設けていただければ、また励みになるんじゃないかなあなんてこと思います。また、よろしくお願いします。

平林社会教育課長 わかりました。

小澤委員長 ありがとうございます。

○報告第2号 6月の行事予定等について

小澤委員長 次に6月の行事予定でございますけれども、ページで言うと5ページです。お気づきの点ございましたでしょうか。6月議会も始まります。その他、各種のイベント等ございます。6月26日臨時・定例教育委員会が開催されます。よろしいでしょうか。

○報告第3号 後援・共催について

小澤委員長 それでは次に後援・共催の部に入ります。6ページから多くて10ページまでにわたって、いかがでしょうか。

石井委員 野外スポーツが盛んになってくるわけですがけれども、塩尻市には塩尻市営球場というのが1面あるわけですがけれども、そのほかに、野球ができるっていうのは総合グラウンドと、それから広丘にできたところですか。そんなことを見ますとですね、非常に野球人口の割合に野球場が少ないのが、ちょっと欠点かなと思っておりますけれども。市営球場の使用、使用者の申し込みですがけれども、これはそういった会議でもってお互いに計画を持ち込んで、場所取りをしてるという状態でありませぬ。

青木生涯学習部次長(スポーツ振興課長) 施設予約につきましては、大きな大会等につきましては、毎年2月と3月に、市営球場だけではなく体育施設全てについて、1年間の大会を先にシステムに入れるための調整会議を開いております。通常の前予約につきましては、システムで2カ月前からということになっておりますので、大会等については、事前に会場を押さえておいていただく、そういうこととなります。

石井委員 そこでですね、全ての市営球場が、県下各地そうですね、高野連が優先されてしまっ

てるというような状態。高野連はいけないというんじゃないですけども、高野連ももうちょっと考えていただいて、市民が使えるような状態で場所取りをしてもらいたいなというふうに思うわけです。高野連はいつからいつまでと言ってぱっと押さえちゃっていますのでどうしようもないというようなことで、苦情がいっぱい来てるんですね。例えば、小学校の子供たちが、先ほども片丘の子供たちが中信の優勝を得たというようなことがありますけれども、その子供たちの大会の準決勝、決勝くらいは市営球場でやらせてやりたいなと思っても、高野連が入ってしまっていてできないというようなことで、非常に不都合を感じてるわけですけども。私は高野連が、これは県下でもって考えていただかなきゃいけないと思うんですけども、高野連が全て優先をするということはおかしな話ではないかと。なぜ高野連が全て優先をするかということになりますと、高野連は入場料を取ってるわけですね。だからああいう囲いのある球場じゃなきゃだめだということなんですよ。アマチュア野球がアマチュアでもって学校の活動でやってるものですね、入場料を取ること自体もおかしいわけですし、中信くらいの大会ならば各学校のグラウンドでやってもいいんじゃないかと。どうしても市営球場じゃなくて、各学校ですばらしい球場を持っていますのでやってもらう。そこら辺も検討はしていただきたいなと、こんなぐあい pensando、非常に子供たちのチームから、何々のチームからなぜ市営球場が使えないんだと。市営球場っていうのは、市民のためにあるんじゃないかというような話もありますし、それから高野連の取り方ですね、1日に2試合きりやらないわけですね、それでもう1日中とってしまう。予備日までびっしりとるというようなことでもって、はっきり言って1週間くらいばーっと入っちゃうというような状態、あるいは、土日、土日でもって、各週に入ってしまうというような状態。これは、私ども、また県としても話し合っていないかなきゃいけないと思っておりますけども、そこら辺もちょっと塩尻としてもお考えをいただきたいなと思っておりますけども、課長どうでしょうかね。

青木生涯学習部次長（スポーツ振興課長） 会場については高野連の問題ですので、私どものほうでは何とも言えませんが、市として高野連を排除するわけにはいかない状況にはございます。ただし、実際に塩尻の市営球場を高野連優先にしているということはございませんので、年間の予定の中で調整いただいております、子どもたちが使いたいという要望があった場合には、それぞれの利用団体で話し合いをしていただいている状況です。そういう高野連ばかり優先しているというような話は、現在、市のほうには来ておりませんので、そういった実態があるのであれば、今後、野球関係者の皆様のお話を聞く中で、市として何ができるかということは考えてまいりたいと思っております。

石井委員 もうちょっとやっぱし現場の話も聞いてもらいたいと思うね。高野連を除くわけにいかないって今言われたけども、そうしちゃ、どこから来てるわけ。県からここはあけなさいというふうに。この週とこの週は高野連で使うからというようなことで来てるわけですか。利用委員会でもって、そこでもって日程を取るということでやっていますか。

青木生涯学習部次長（スポーツ振興課長） 高野連だけ優先的に入れているということはございませんので、年間の大会日程の中で軟式の方も含めて調整をいただいております。ただ、毎年高校野球も軟式野球も定例的に大会が行われているので、日程的な部分については慣例的に押さえられてしまうということはあるのかもしれませんが。

石井委員 ちょっと全県的にこれは話をしていかなければいけないなと思っておりますので、話を進めていきたいと思っておりますし、それから、もう1点、総合グラウンドですけども、きちんとベンチをつくっていただきたいなと。というのは、あそこでもってこれからは夕立が来たりなんかしますと、子供たちは雨をよける場所がない。びしょ濡れになってしまうというようなことがあるわけですし、ベンチというと、グラウンドのすぐ横というんじゃないんですけども、あの駐車場のところへ雨よけの鉄筋でもって、駐車場と兼ねた雨よけをするようなぐあいにしたものをお考えいただければな

というふうに思います。Bコートからこっちの車のあるところまで飛んで来る間にもびっしょりになっちゃうというような状態もありますので。あそこにゲートボール場がありますけど、あそこもフルに覆い囲いしてもらえば、かなり違うかなとも思っていますけど。そこら辺もまた、今年度の予算編成も終わってますので、これから急に言っても無理だと思いますけども、そんな方法をまた来年度考えていただきたいなど、こんなぐあいに思っています。以上です。

小澤委員長 それは、要望としてあげておいていただければいいですね。

石井委員 はい。

小澤委員長 ありがとうございます。きょう、議事はありませんので、その他のほうへ入っていきたいと思います。

5 その他

○その他第1号 教育委員会規則等改正（案）について

小澤委員長 その他第1号、教育委員会規則等改正案についてお願いいたします。資料の11ページ及び本日配付されました1枚物の資料であります。事務局から説明をお願いいたします。

小林教育総務課長 それでは、ただいま御紹介ありましたように11ページの資料とですね、本日、当日配布になっております資料をごらんいただきたいと思います。

教育委員会規則ということで、教育委員会で定めております公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例の施行規則の一部改正でございます。これは、親になっております塩尻市公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例がございます。この条例が、今回改正されまして6月定例会に一部改正ということで変更されますので、その影響が及ぶ部分につきまして今回改正をするものでございます。

具体的な内容につきましては、本日配付の資料をごらんいただきたいのですが、まず裏面2ページをごらんください。親条例のですね、市の条例のほうの新旧対照表になります。現行が今の状態、それから改正案が今回議会に提案する部分になりますけれども、もとの1条と2条の間にですね、新しい条を1つ繰り入れます。それは、指定管理者につきましては基本的には公募にするという規定を入れたものでございます。教育委員会規則といたしましては、このもともとあった2条の部分を引用しておったんですけれども、改めて新しくできた2条の第1項の部分を、市長は指定管理者に公の施設の管理を行わせようとするときは、当該公の施設に係る指定管理者の指定を受けようとする法人その他の団体を公募するものとする、ということで、まず公募が前提という形の条文改正になりますので、この部分を改めますということで、資料の表へ戻っていただきまして、教育委員会の条例施行規則の第2条の1行目の後半部分、条例第2条第1項の規定による公募。これが、第1項のという部分が追加になります。それから、公告をする、この部分が追加になります。それから、その下の部分で、第2条の第2項で定めていた部分につきましては、本条例のほうで規定をしてくる形になりますので、削除をするという形の改正を行うものでございます。

施行日につきましては、条例に合わせまして施行するというものでございます。

小澤委員長 ありがとうございます。この件に関しまして御質問ございますでしょうか。

○その他第2号 平成25年度教育委員会関係補正予算（案）について

小澤委員長 次にその他第2号であります。平成25年度の教育委員会関係の補正予算についてでありますけれども、資料の12ページ、事務局のほうから御説明をお願いいたします。

小林教育総務課長 それでは、引き続きまして資料12ページをごらんください。今回、6月定例議会に提出いたします一般会計補正予算（第1号）の中で、教育委員会関係の補正予算について御説

明を申し上げます。

今回の補正の趣旨でございますけれども、現在、塩尻中学校のほうでALTをやっていたいておりますヘザー・ドリナンさんが退任をされまして、新規のALTジェームズ・プレストンさんをお迎えすることに伴いまして補正予算を行うものでございます。内容といたしましては、現任者のヘザーさんの帰国の旅費等、それから新任者の来日旅費等のそれぞれの旅費を補正するもの。それから、ALTの交代に伴うJETに対して支払います渡航費用の負担金の増額補正というものでございます。ヘザーさんにつきましては、本年2月末に退任したいということのお申し入れをいただいておりますけれども、その時点で当初予算はもう既にでき上がっておりまして、議会にかけるばかりという状況になっておりまして、その予算措置が間に合わなかったために今回6月補正において補正をするというものでございます。

小澤委員長 ALTの任期は2年ですか。

小林教育総務課長 1年です。

小澤委員長 1年、単年度で。

小林教育総務課長 1年、単年度更新。

小澤委員長 1年ごとにこれだけのお金を出費するって大きいですね。もっと長く2年、3年というわけにはいかないのかなというようなことは思うんですけども。

小林教育総務課長 御本人の意向という形になりますので、どうしようもないです。

小澤委員長 ですね。再任も、これはいいわけですか。

小林教育総務課長 再任は結構です。

小澤委員長 本人の意向ということだけ。なるべく子供たちはなれるというか、そういう意味からしても長く滞在して教育に当たってほしいなという思いを、どこかでお伝えいただければと思います。委員の皆さん、どうでしょうか。

田中委員 金額等についてと、あと、多分JETのことかなと思うんですけども、自治体国際化協会のことについてお伺いしたいんですけども。

まずNo. 1のところ、帰国費用は20万2,000円で、来日費用が8万1,000円で、こちらの2番のほうで補正額が20万円なので、この20万円をこの来日費用に足しているのかなと思ったのが、それでいいですかということ、英語が教科化されるというようなことも聞いているんですけども、ALTの確保に苦勞されている自治体もあるということで、やっぱりニーズがふえてくると資質が下がってしまうかなという心配もあったり、途中でこのように帰られてしまったりすることもあったり、また、ALTの先生に日本語能力、もう少し日本語が、日本のことは理解してくださっている先生も多いと思うんですが、やっぱり教えていく中では、指導助手なんですけれども日本語能力が必要かなと思います。教科化に対して、もうちょっと国語教育が優先ではないかというような声もあったようなんですけども、私は、言語活動は重要で、その言語活動によってコミュニケーション能力が高まったほうが学校生活もうまくいったり、社会に出た後もいいのかなと思ったりしていて、言語能力がつくのは国語を勉強するだけじゃなくて、ほかの言語を学んだり言語活動をすることによって、聞いたり、話したり、書いたりする力も上がっていくと思うので、英語が教科化されることはいいことだと思うんですけども、ALTの先生を確保するのが、今、自治体国際化協会にお願いする以外に、何かもうちょっと違う方法で先生をお招きしたりすることはできないんでしょうかという2点をお伺いしたいと思います。

小澤委員長 お願いします。

小林教育総務課長 まず補正の金額のほうですけども、旅費の関係ですと、帰国旅費のほうは20万2,000円、あと、着任者が8万1,000円ということですけども、帰りのお金はこちら

持ちになってしまいますので。来る方のお金については、JETがまとめてこの時期に、ほかの方も一緒に、例えば塩尻市以外に来る方も含めて招聘をいたします。そういった方を、招聘のときにはJETのほうがまとめて招聘をいたしますので、その中で、今回何人来たのでお幾らというような形で負担金扱いになります。ですので、おっしゃったように、帰る方と来る方とほぼ同じような金額になるんですけども、呼ぶときにはまとめて呼んでくるので、その分は負担金になります。というような勘定で今回の補正をさせていただいております。

それから、今、JETと申しますか、外国人雇用、英語の専任教師という感じになるんですが、今回、本市の場合においてはJETでお願いしている方と、それからアクティブパーソネルという会社に業務委託でやっている場合とございます。これにつきましては、やはりメリット、デメリットがございまして、基本的にはやることは英語授業というもの、それから小学校における国際理解教育の補助、それから英語教材作成の補助ですとかそういったものが挙げられます。業務委託の場合だと、中学校における英語授業の指導、それから小学校における国際理解教育の指導、あと英語教材の作成というような形になっておりまして、いわゆる業務委託の場合には、偽装雇用というのですか、直接学校側がその先生に対して、これをやってください、あれをやってください、こういうことができないというような形です。業務委託で人材派遣をいただく場合には、確かにそういう手続き的な面というのは比較的簡単になります。だから、欲しいだけ呼ぼうと思えば、お金さえあれば呼んでこれるんですけども、なかなか学校の授業の中の指揮権限ですとかの問題がちょっとグレーなところが、今の日本の法律上では発生してしまうという部分がございます。ということの中で、なかなかどちらもよしあしありますので、そういったところでできるだけ私どもとしても、現地との、そういう現役の方との交流とか直接の教育をしていただくというものについては、非常に期待するものでありますので、予算の関係とか、実際の手当ができるか、どのくらい割り振っていただけるかという部分を含めてですね、それぞれ検討しながら、どちらのALTがいいのかというのをお考えしております。

田中委員 学校訪問等でALTの先生の役割を見ていると、本当に、小学校ですと子供が英語に親しむということでは、工夫されたり、身振り手振りも大きいので、いいかなと思うんですけど、中学校においては、そうでなく、なかには工夫されている先生もいらっしゃるんですけども、単にCDのかわりになってしまっている先生がいたりして、すごくもったいないかなと思います。先生の住居も塩尻市で持ったりしているのもう少し塩尻市の英語に親しむことに関してや、英語教育に対して何かしていただけないのか。法律や規約があつて無理かなと思うんですけども、以前、それは塩尻市の職員か嘱託かで、広報しおじりの中で国際交流員の先生方がお話を広報で連載されていた部分もあったかと思うんですけども、もう少しALTの先生方で何か子供たちに対して発信するようなことができたらいいのになと思っていましたので、今の状態では難しいのかと思うんですけども、そんなこともしていただけるように、今後考えていっていただきたいと思います。教科になるかならないかということだけでなく、やっぱり子供たちの言語活動、言語能力が上がったほうがいいかなと思いますので、お願いいたします。

小澤委員長 そこら辺のところ、教育長、塩尻市に国際理解教育の委員会ありますね。それが6月24日かな。

山田教育長 1回目はもう終わってると思います。

小澤委員長 年に6、7回、ALTの先生も含めながら研修会やりますね。その実情についてちょっと話をしてもらえばと思います。

山田教育長 第1回目の打ち合わせのときにちょっと私は出られなかったんですけども、一番お願いをしていることは、やはり何をやるのか、何を身につけるのか。特に小学校の場合であれば、今

のところは英語活動と国際理解教育の英語活動をやっているわけですが、その中で身につけたいのはやっぱりコミュニケーション能力中心で、ネイティブな言葉にきちんと乗れる、そしてそれを自分の体に受け入れながら、それを使ってコミュニケーションしたり、それをまた1つのツールとして日本語でコミュニケーションしたりするという、そういうことをとにかくまずやっていくこと。もう1つは、これからのことを考えていったときに、塩尻市であれば全ての先生方が自分で英語活動の授業ができる、そういった力をつけていくために国際理解の講師の先生方やALTの先生方に力をいただきながら、ここにいる間にそういう力を何とかつけようというように、今年はお願いをしながら担任の指導力をつけていきたいと思えます。担任が一生懸命指導力をつける、その過程で子供たちがやはりそれに一緒に慣れていく、一緒に進んで取り組んでいくようになっていくということを大切にしたいと思えます。あともう1つは、小学校、中学校をどうつなげていくかということで、これまで進めてきている国際理解の講師の先生方が中学へ行って授業を見るとか、授業をするとかという、そういう機会をきちんとつくることと、それから、中学の英語の先生方も小学校の英語活動の時間をやはりしっかり見ていただいて双方の意思疎通を図っていくという、そのあたりが今の英語活動、英語科の授業をつなげていく1つの大事なポイントかなということで、ことしは進めていこうとしております。以上でございます。

小澤委員長 これから学校訪問の中で参観の機会があると思えます。また、教育委員会で多額の金を投資している。実が上がっているかどうか、また見て来て話題にしたいと思えます。

小林教育総務課長 1つ補足と言いますか、去年まで広報のほうで幾らか出ていたというお話なんです、広報のほうで出てきていた方の場合、ALTではなくて国際交流員という形で、去年9月でお帰りになって、若干その後、その後任等の話もあったんですが、一応、秘書広報課のほうの方針としては、後任はとらないということで、そういう結論で今に至っているという状況でございます。

小澤委員長 ありがとうございます。きょうは、これで終わりにするわけですが、皆さんで、あるいは御出席された職員の中で、話題等ありましたらお寄せいただければと思えます。

清水こども教育部次長（家庭支援室長） 会議の前にお配りして大変申しわけございません。お手元に6月12日に開催する元気っ子応援事業、元気っ子講演会の御案内です。もしお時間ありましたら御出席、御参加いただければと思えますので、ちょっと内容を若干説明させていただきます。

NPO法人えじそんくらぶ代表の高山恵子先生につきましては、下にプロフィールがあるとおり、文科省、厚生労働省、それから社会報告等々のそれぞれの委員もお務めになられて、非常に御多忙な先生です。塩尻市の元気っ子応援事業につきましては、裏面にペアレントサポートプログラムがあるんですけれども、長くに渡って塩尻にもかかわっていただいている先生で、お忙しいところを今回、時間を差し繰りして来ていただきます。この部分では一般の方が対象なんですけれども、これが午後3時30分に終わります以後、今度は園長会のほうで研修をするということで、園長先生方の研修プログラムにも入っています。なかなかお忙しい方なので、一回塩尻に来たときになるべく充実した内容にしようということで、こども課とも連携をとりながら計画をしております。

それから、チラシはないんですけれども、今年度、昨年教職員のほうの研修会に、特別支援教育の研修会にお呼びした福岡先生と両川先生、両先生をまたお招きしまして5月28日と6月4日につきましては、全市内の保育士を対象に2回に分けて福岡先生のほうから研修をしていただく予定になっております。また、続きまして7月1日につきましては、両川先生、特別支援教育士の両川先生については、私ども家庭支援室のスタッフ、それから教育センターの先生の、来年度小学校から中学校に上がるに当たっての学校の具体的な支援方法等々についてより具体的に研修をしたいということで、お忙しいところお時間をいただいて、私ども自身も研修をしていくと。

そういうことで、先ほど移行支援の話がございましたし、それぞれの保育士、園長、それから教職員、学校長等々の職員が、同じ情報を共有して支援の必要なお子さんの支援方法をみんなで考えていくと。そういう方向を、ことし、目指していますので、ちょっと御紹介をさせていただきました。以上です。

田中委員 先日、5月16日の日に市長さんが塩尻市に来られた小中学校の新任、転任の先生方への研修会をされました。その中で市長さんが親としての考え方ですとか、社会人、新任の先生は社会人になられた先生だと思えますので、社会人の心構えですとか、市長さんがどのようなことをもって教育再生、私が聞いたところでは、1回は出ても、いずれかはどのくらいかしたら塩尻市に戻って来たいなと思ってもらえるような塩尻市にしたいし、そういう子供たちを育てたいというようなお話だったかと思うんですけども、質問が、洗馬小の荒井先生からしか出なかったんですが、その後、先生方が市長さんのお話をお伺いしてどのようだったかというようや反響等、来ておりますでしょうか。

山田教育長 私のところは、1件だけ来たのは、次の日だって言ったかな、研修を受けた新任の先生が、これもまた新しい校長先生のところへ来まして、特にあの場で学校独自に校長の裁量で予算を組みたいという話の中で、校長先生、私はこういう事業をやりたいんですけど、どうでしょうかというように提案されたということがありました。それは、具体的に言うと広陵中学校で、広陵中学校ではブドウをつくっているんで、そのブドウをもう少し本格的にみんなで勉強をして少し広くして、それから市内ではワインをつくっている高校もあるので、そういうようなところとも連携をして、自分たちで味わうことはできないんだけども、広陵中銘柄のワインをつくりたいと。また、それを熟成してもらって、二十歳になったときに自分たちがつくったワインを家族で味わいながら、そこで自分の成人の意志と、それから家族への感謝の気持ちをあらわす、そんなような事業はどうですかというように提案がありました。というようなことを校長は言っていました。

ほかでもそういう提案が動き始めてくるのではないかなというように思っておりますけれども、そういう意味では、私に入った反響の1つです。

小澤委員長 課長さん。

小林教育総務課長 その後ですね、新任の教頭先生、校長先生の歓送迎会があって、その歓送迎会の中で、いやどうしようと。どういうネタがあるんだろうかということで、つぎ回った15人の校長先生それぞれおっしゃっておいででしたので、非常に大きな起爆剤にはなっているのかというふうに感じております。

田中委員 何かないと、校長先生方もなかなか意気込みというか、やってらっしゃるんですけども、そのように見えないこともあったかなと思えますので、この機会に独自色を出そうとして、また新たな風が吹いたらいいなと思えますので、期待しています。

小澤委員長 そうですね。よろしいでしょうか。

6 閉会

小澤委員長 以上で、5月の定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後2時30分に閉会する。

以上